



検査詳細

【子宮頸がん検査】

＜検査方法＞ 子宮頸部細胞診(小さなブラシで子宮頸部の細胞をこすって採取)を行います。痛みはほとんどなく、数分で終わります。

子宮頸がんは、特に20代～30代の方に罹患率が増加しております。子宮頸がんは、性交渉によるウイルス感染が原因のため、性行為がある方は20代でも年1回は子宮頸がん検診を受けていただくことをおすすめいたします。
自治体で子宮頸がん検診を助成しているところもあるため、自治体の検診をすでに行っていれば検査する必要はございません。
(大半の自治体の助成対象は子宮頸がん検診のみで、子宮体がん検診が含まれておりません。)

* 尚、当院は荒川区子宮がん検診の実施医療機関です。婦人科は何か症状がないと受診されることが少ない診療科のため、検診受診時、当院では**経腔超音波を併せて行っております**。異常が確認されない場合は無料となります。

【HPV(ヒトパピローマウイルス)検査】

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルスの性感染によって引き起こされるがんです。性感染症ですので、性経験がある年齢から**年1回の検診が大切**です。

しかし、HPVに感染したからといって全員が頸がんになることはありません。正常な細胞がHPVに感染し、異型細胞になってさらにそれががん細胞になるのは、平均10年以上の年数や喫煙などといったほかの要因が加わるからではないかと考えられています。そのため**早期発見さえできれば、子宮頸がんはほぼ100%完治できる病気です**。
今後頸がんになりやすいかどうかを検査したい方におすすめ致します。

【子宮体がん検査】

＜検査方法＞ 子宮内膜細胞診(細い管を子宮頸部から挿入し子宮内部の細胞を採取)を行います。

子宮体がんは、頸がんとは異なり子宮内膜にできるがん女性ホルモンが大きく影響しています。生理が毎月規則正しくきていれば子宮内膜が毎月はがれて生理として流れますので、体がんになることはほとんどありません。不正出血や下腹部痛などの症状がある方(症状がある場合は保険診療)や40歳以上の方(体がんは特に40歳以降に多い病気のため)におすすめする検査です。

【卵巣がん検査】

卵巣がんは、進行するまで自覚症状がないため、発見しにくいがんとされています。早期発見が難しいとされていますが、卵巣がんにかかりやすいタイプがございますので、あてはまる方は、検査することをおすすめ致します。

＜卵巣がんにかかりやすいタイプ例＞

- ① 遺伝的要素(母親や姉妹に卵巣がん・乳がんにかかった人がいる場合)
- ② 結婚・妊娠・出産経験のない方(排卵回数が多いほど卵巣がんになりやすいため)
- ③ 欧米型の食生活やストレス過多の生活
- ④ 子宮内膜症の卵巣のう胞(チョコレートのお胞など)がある場合、40代以降にがん化する可能性が1%程度あるといわれています。

*** 上記に該当する方は、最低でも1年に1回・二つ以上該当する方は、できれば3～4カ月に1回は検診することをおすすめ**

＜検査方法＞

経腔超音波検査を行い、卵巣の大きさや形、性状をチェックします。
次に、CA-125(腫瘍マーカー)という血液検査を行います。この測定量が増えていると卵巣がんの兆候の指標になります。
CA-125は、性周期で変動するため、生理が終わった頃に検査を受けるよう検査日を設定させていただきます。

【プライダリーチェック】

結婚を控えている方におすすめいたします。自分のため、大切なパートナーそして、将来生まれてくる赤ちゃんにとっても重要です。
これからの妊娠・出産を考えて、自分の子宮や卵巣が正常なのか・また子宮頸がんのリスクがあるかどうか知っておきたい方のために、超音波検査と子宮頸がん検査を行います。

- ① 貧血の有無に加えて、自分の性ホルモンは正常なのかどうか知るホルモン量の測定、そして甲状腺ホルモンの量をチェックいたします。
性ホルモンは性周期により変動しますので、検査日は生理の直後にさせていただきます。
- ② 膣炎が拡がった結果として、切迫流産を生じる方もいるので、おりものの細菌検査もいたします。
- ③ 不妊症の原因となる子宮内膜症やクラミジア感染のリスクも判別いたします。さらに、妊娠中に風疹にかかると胎児に影響を及ぼします。
風疹の免疫を持っているのを事前に知っておくことは有益であると考えられます。
最後に、母子感染症となる、梅毒・B型肝炎・C型肝炎・HIV感染は結婚前にあるかどうか知っておくことも有益と思われます。

【性行為感染症検査】

まずは、細菌性膣炎(膣が炎症していないかどうか)を判別するために、おりものの一般検査を行います。
次に、性行為感染症の中で一番多いとされるクラミジア感染を調べます。クラミジアは自覚症状のないことも少なくありません。不妊症の原因にもなるため検査をおすすめしています。
またクラミジア感染者が淋病やHIV(エイズ)を併発(同時にかかること)していることが問題になっているので、両者も検査致します。梅毒の検査も追加して調べます。
クラミジアIgA・IgG検査により、感染が過去のものなのか、最近のものかなども判定いたします。
ただし、感染して間もなくは免疫ができていないためご注意ください。

【更年期検査】

更年期は通常、閉経(平均51歳)前後の10年間を指します。更年期症状は、閉経にさしかかると卵巣機能が低下して体内の女性ホルモンが減少することで生じてまいります。

エストロゲン(女性ホルモン)は、肌や骨・血管・脳などに大きな働きをし、自律神経系にも作用しているため、これが減ると全身にさまざまな症状が起こってくるので生理周期や生理の出血量が変わってきたなど、このような変化が更年期の始まりであることが多く、生理の期間が短くなったり、周期が短くなったりします。

そのうちに、のぼせ・発汗・動悸・肩こり・頭痛・不眠・イライラ・憂うつなど、さまざまな形で不調が現れます。
以上のような症状が気になる方は検査することをおすすめします。(＊症状のある方は、保険診療になります)

まずは血液検査としては、貧血・甲状腺ホルモン・高コレステロール血症・糖尿病・凝固系検査(血液の固まりやすさなど)・女性ホルモンの量をチェックいたします。
肝機能及び、腎機能検査も行えます。

また、更年期以降は骨がもろくなってまいります。女性ホルモンの低下が続くと、骨量が減り、骨粗鬆症になる方もいらっしゃいます。
そこで、ご希望の方は、骨粗鬆症のリスクがあるのかどうか骨量検査をいたします。あらゆる角度から不調の原因を探り、原因がどこからきているか検査いたします。
最後に、簡易心理検査により抑うつ症状が強いかどうか客観的に判定いたします。

当クリニックは、産婦人科と精神科を標榜し、一人の医師がメンタル面のサポートもさせていただきます。
小さな悩み・不調など、お気軽にご相談ください。

＜プレ更年期＞

閉経前の30代後半～40代前半の方(人によっては、20代や30代前半の方も該当する場合があります) ＊更年期検査と検査内容は同様です。
プレ更年期とは、まだ更年期前なのに、体と心にさまざまな不調を経験する時期のことを言います。更年期のような症状が起こる原因は、卵巣機能の低下であると考えられます。30代後半から徐々に卵巣の働きが弱まり、卵巣から分泌される女性ホルモンは低下していきます。

さまざまな不調の原因は、この女性ホルモンが低下しているためなのです。この症状は、30代後半から40代前半に起こることが多いといわれています。
プレ更年期の症状は、多彩で不安定なのが特徴です。卵巣機能の低下に加えて、ストレスや過労、生活習慣そして心理的素因など、いくつかの要因がからみあって生じているため上記の更年期検査と同様、あらゆる角度から不調の原因を調べ、検査の結果を総合して不調をなくす対策と一緒に考えてまいります。

【乳がん検査】

乳がんの検査や治療は外科で行われていることは、あまり知られていません。子宮がんと乳がんを同時に調べるために、施設をまたがなければならない不便さを訴える方もいらっしゃいます。ご希望のある方は、当ビルの2F「堀メディカルクリニック」へご紹介させていただきます。(＊尚、紹介時は事前に「堀メディカルクリニック」にてご予約をおとりください)
同クリニックとの連携により、女性のトータルヘルスサポートを目指してまいります。